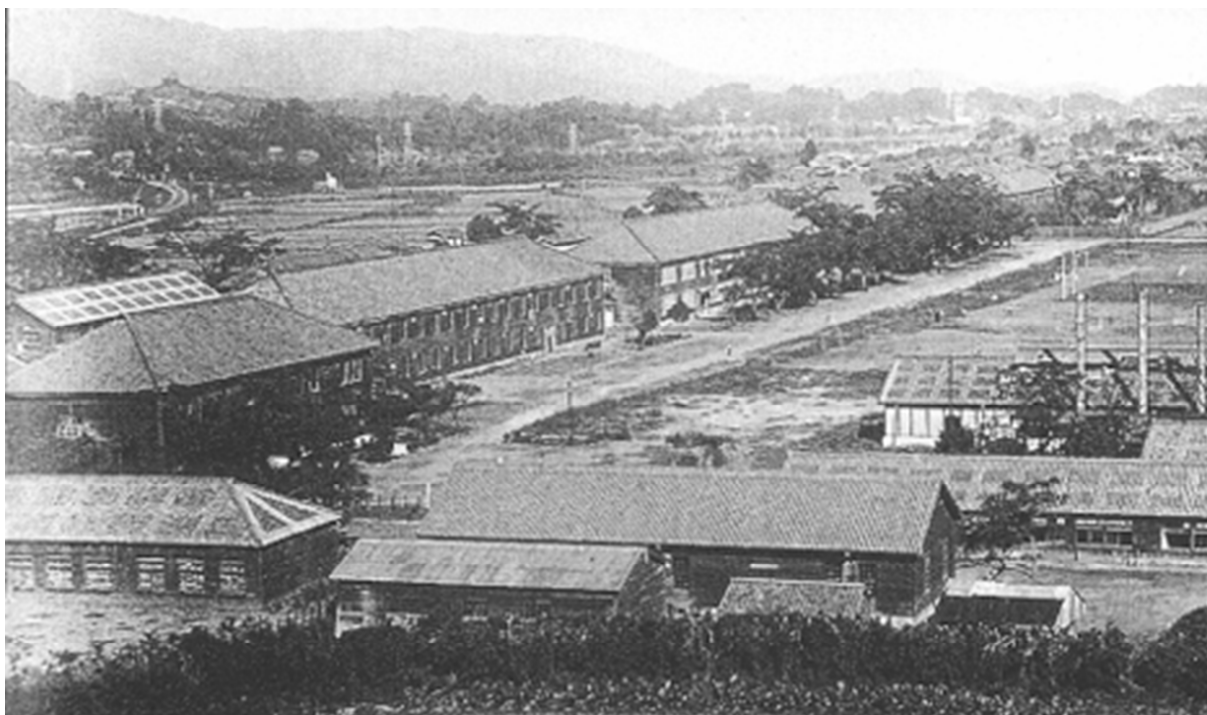


資料編 1 写真資料



写真名：不明

出典：高知大学三十周年記念誌刊行部会編『高知大学の三十年』（高知大学創立三十周年記念事業委員会）（1979年）



朝倉キャンパス（昭和25年）

出典：高知大学創立50周年記念事業委員会編『高知大学創立50周年記念写真集』（1999年）

※左手前の建造物は講堂である



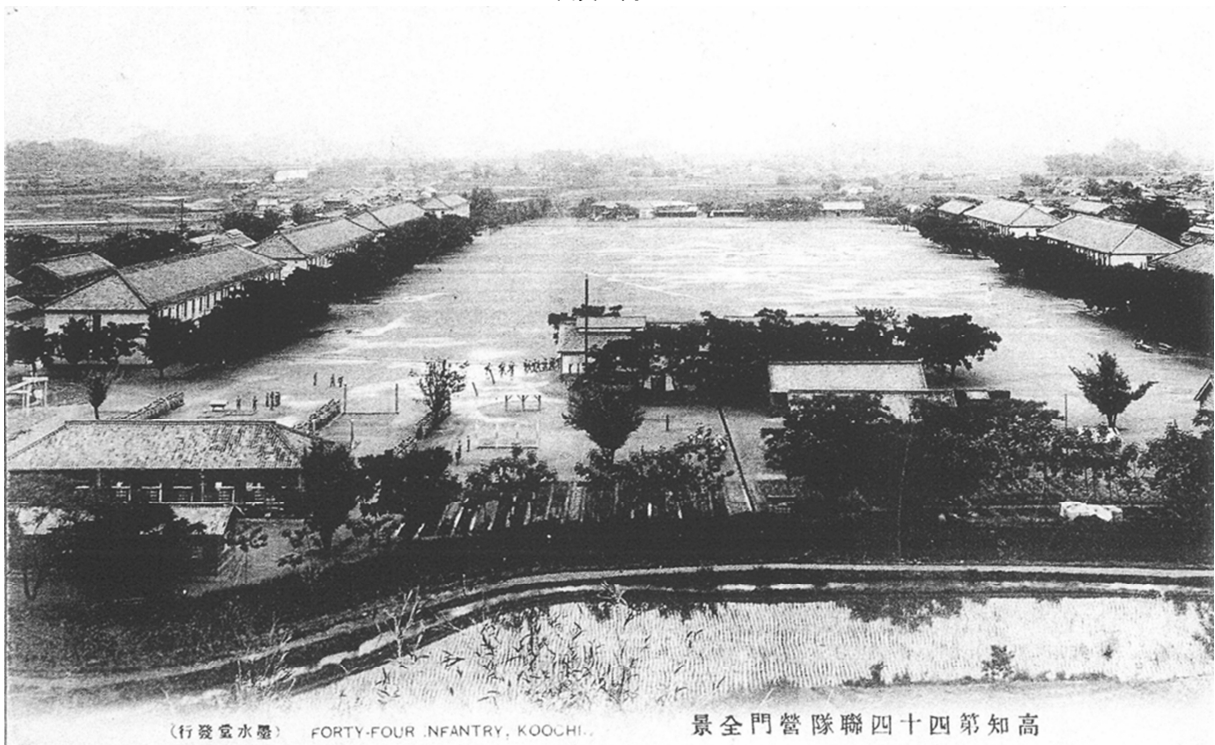
進駐軍兵舎正門（朝倉兵営、現在の高知大学正門付近） 昭和21年頃

現在の高知大学正門付近。奥の建物は朝倉兵舎。昭和20年11月4日朝倉駅着の列車で、
連合軍第一次高知進駐軍部隊（アメリカ軍）が到着し、その宿舎として利用していた

出典：高知県立歴史民俗資料館編『企画展 絵葉書のなかの土佐 一移ろいゆく時代の記憶一』（同館，2008年）



歩兵第四十四連隊正門 文葉堂発行 高知市民図書館蔵
営門右横にいるのは衛兵。左横の建物は連隊本部だったという。
出典：同上



高知第四十四連隊営門全景 墨水堂発行 高知市民図書館蔵
城山から俯瞰で撮影したもの。手前の道路は国道56号線。同じく手前の建物は倉庫。左横の木陰に弾薬庫があり、不寝番兵がいた。左上隅に営門。営庭左右のせんだんの木の横には兵舎がそれぞれあった。周囲には杉の生け垣と形ばかりの有刺鉄線があったという。兵営敷地約13.2万㎡、練兵場約16.5万㎡ほどの敷地で、他に病院・射的場・墓地などがあった。
出典：同上
※左手前の建造物は講堂である



高知第四十四連隊兵營（其一） 隅田葉書店発行 高知市民図書館蔵
營門における衛兵交替の場面
出典：同上



步兵第四十四連隊 銃劍術 文葉堂発行 高知市民図書館蔵
着剣突撃は日本陸軍の伝統であり、銃劍術は基本的な訓練の一つだった。中央の人物は教官（将校）であろう。
出典：同上

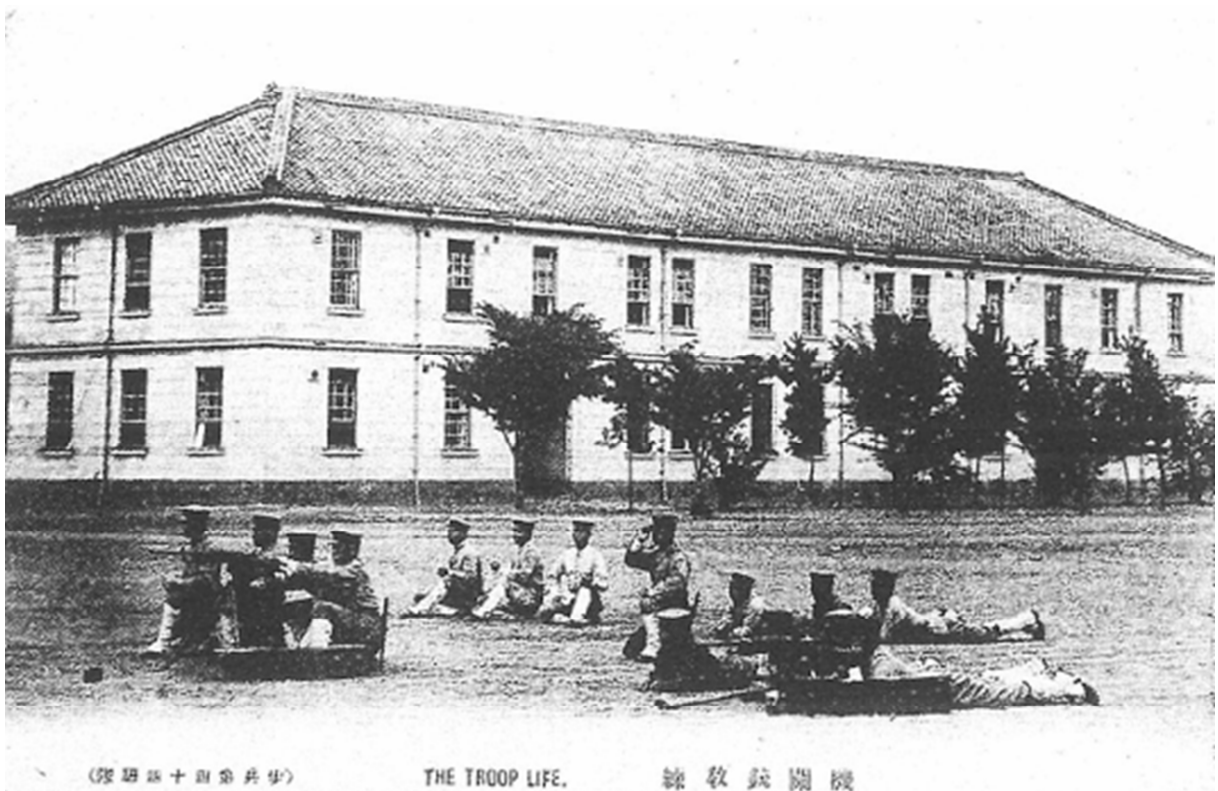
※左奥の建造物は講堂であり、右奥の建造物は土塁に囲われる第2弾薬庫である



步兵第四十四連隊 器械体操鉄棒 文葉堂発行 高知市民図書館蔵
兵士となるための基礎体力作りの一環として行われていた。

出典：同上

※中央奥の建造物は講堂である



機関銃教練（步兵第四十四連隊） 島崎誠氏蔵

4人1組で機関銃の射撃操作訓練を行っている。中央の腕章をした兵士が分隊長（軍曹）のようである。

出典：同上



空中写真 昭和 22 (1947) 年
出典：国土地理院



空中写真 昭和 37 (1962) 年
出典：同上



空中写真 昭和50（1975）年
出典：同上



空中写真 平成22（2010）年
出典：同上



航空写真 1963年頃

出典：高知大学蔵

※高知市教育委員会『旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査報告書』（2016）から引用



航空写真 1967年8月

出典：高知大学蔵

※高知市教育委員会『旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査報告書』（2016）から引用



航空写真 1982年5月

出典：高知大学蔵

※高知市教育委員会『旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査報告書』（2016）から引用



航空写真 1983年頃

出典：高知大学蔵

※高知市教育委員会『旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査報告書』（2016）から引用



空から見た校舎全景

出典：高知大学教育学部付属養護学校 20 周年記念事業実行委員会編『創立 20 周年』（1989 年）

※高知市教育委員会『旧陸軍歩兵第 44 連隊弾薬庫等調査報告書』（2016）から引用